



出逢いと祈り、そして三子との遭遇

来てみっちゃ! 「交流の里おおあみ」

鶴岡市「小さな拠点」づくり推進事業

地域デザイン

平成 28 年 12 月

朝日東部地区自治振興会

大網地区「小さな拠点」づくり検討委員会

目 次

はじめに	1
1. 地域デザインのテーマ	2
2. 大網地区の将来像	2
3. 計画の期間	2
4. 現状と課題	2
5. 数字で見る大網地区	3
6. 地域が誇る資源	4
7. 取組の方向性	6
8. 取組の目標	8
9. 事業計画（平成 28 年度～平成 32 年度）	9
10. 鳥瞰図	10
11. 具体的提案整理表	12
12. 検討委員会の経過	14
13. 寄稿「大網地域デザインに寄せて」	18

弘前大学大学院 地域社会研究科 准教授 平井 太郎

はじめに

ここ大網地区は、鶴岡市の南部に位置する山間地で、四方を山々に囲まれた盆地に集落が点在しております。昔は出羽三山参りの信者が、湯殿山・月山へと行き交う賑やかな土地でしたが、山間地の為に農地も少なく、米作りをはじめ、和牛・酪農・綿羊の飼育、養蚕・ナメコ栽培・炭焼き等をしながら生計を立てて来ました。昭和 30 年代～50 年代は、どこの家庭でも冬期間は出稼ぎに出ていると記憶しております。

また、昭和 30 年代後半からは小さな田んぼの基盤整備をしたり、開田したりして、大型農機の導入をはかり、余った労力で建設会社や縫製会社に働きに行きました。

時代の流れとともに就業構造も変化し、やがて後継者は学校を卒業すると、ほとんどが会社へ就職するようになり、地区から離れて行く家も多くなりました。

そして、人口が少なくなるにつれ、農協の支所が閉鎖し、ただ一つあったお店屋さんも地区を離れてしまうなど、地区内における生活サービスも縮小の一途をたどり、平成 28 年 3 月をもって住民の心の拠り所であった大網小学校も閉校しております。

今後もさらなる人口減少が予想されるなか、集落地域の再生を目指す新たな取り組みである「小さな拠点」づくり事業の情報を知り、住民の暮らしの安心と生活サービスの維持・再生に向けて、地区をあげて取り組んでみようということになった次第です。

取り組みにあたっては、各集落より検討委員を選出していただき、今後地域に必要なことについて多くのアイデアを出してもらいながら協議を重ねてまいりました。

そしてこの度、その結果として当地区の将来に向けた指針「地域デザイン」として取りまとめたものであります。

結びになりますが、ワークショップを通じて出されたアイデアにつきましては、今後も引き続き検討を重ねながら、やれる事業は積極的に取り組んでいきたいと考えておりますし、このプランを実現するためには、住民一人ひとり、地域組織・団体の参画が欠かせないものでありますので、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

鶴岡市朝日東部地区自治振興会

会長 井上 時夫

【 追 記 】

地区住民の足となっていた庄内交通の路線バスが、来年度（平成 29 年度）から朝夕 1 本ずつに縮減される方針を受け、地区としても自動車免許の持たない住民を何とか手助けできないかと考えた結果、今年度は社会実験として地区内送迎を予約制で実施することにしました。

多くの皆様のご利用をお待ちしております。

1. 地域デザインのテーマ

出逢いと祈り、そしてミチとの遭遇 来てみっちゃ！「交流の里おおあみ」

※ミチとは…六十里越街道の「道」、^{みち}「未知」なるもの、^{みち}魅力ある^ち地の3つの意味を込めています。

2. 大網地区の将来像

地域住民のまとまりの良さは大網地区の強みです。毎年10月に開催している文化芸能祭りでは、大網学校同窓会を同時に開催し、東京支部からも参加者が訪れます。住民と一緒に楽しみ、故郷への熱い想いをもち続けています。

大網地区に誇りを持ち、いつまでも楽しく安心して住み続けられるよう、互いに助け合い、豊かな地域資源の活用や継承により、子どもから大人まで愛着と自信を持って生活できるよう、継続した地域づくりに取り組みます。

そして、住民が自信に満ち、活気あふれる大網地区を実現していきます。

3. 計画の期間

平成28年度～平成32年度

4. 現状と課題

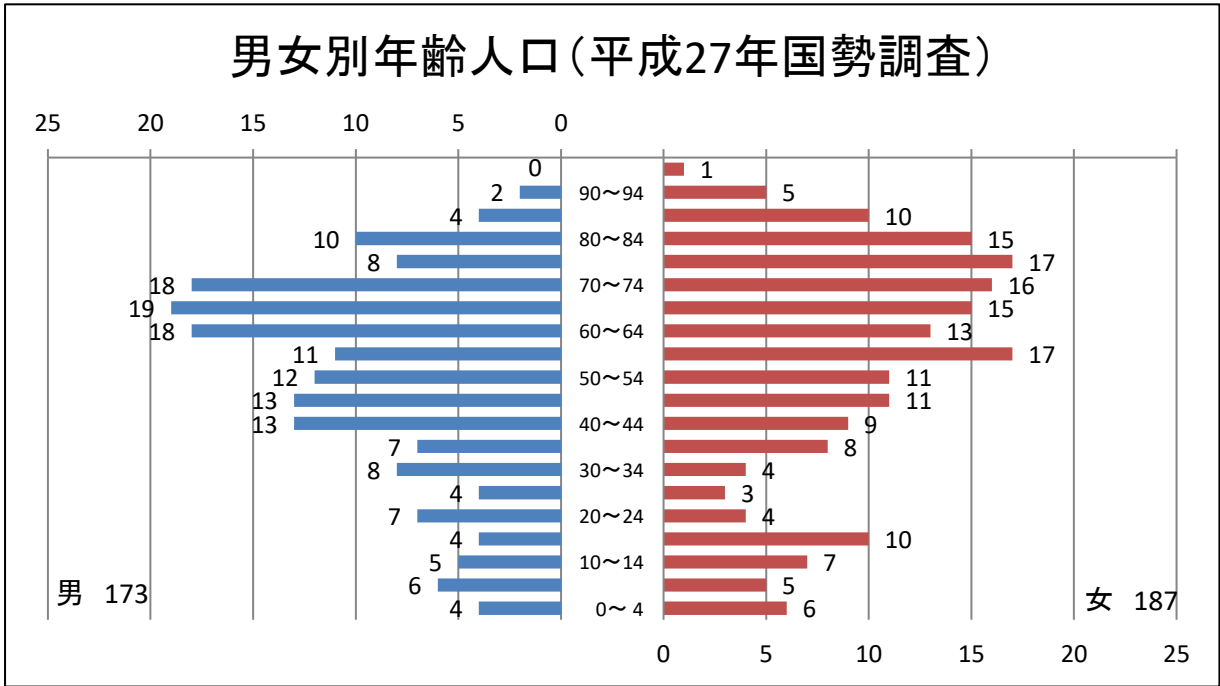
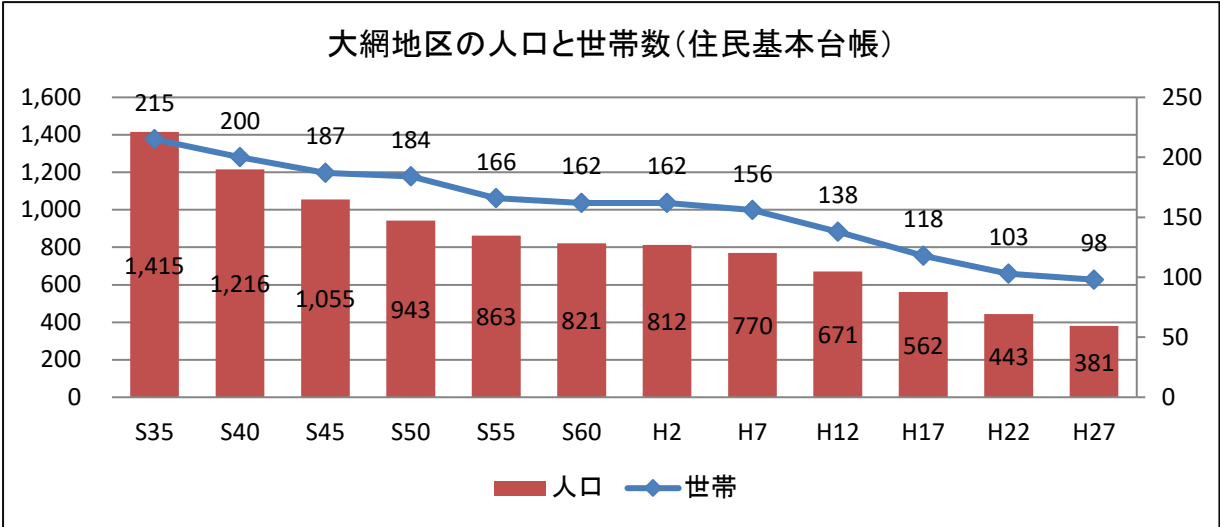
朝日地域の東部に位置する大網地区は、霊峰「月山」の懐に点在する5つの集落からなり、ブナの自然林や月山筋をはじめとする山菜やキノコなど、豊かな自然が残されています。また、湯殿山信仰の道として、大勢の信者や旅人が行きかかった歴史の道「六十里越街道」が区内内を通過しており、沿道には注連寺や大日坊、多層民家など歴史文化資源が多く残っています。

一方で市の中心部から10km以上離れ、積雪が3mを超える豪雪地という立地条件から、過疎化・少子高齢化が急速に進み、保育園や小学校の統廃合、商店の撤退、バス路線の縮減など、生活サービスの低下が続いています。

これらの現状を大網地区の課題として捉え、買い物の場の設置、移動手段の確保、地域資源の活用、情報発信、住民の交流の場づくりを大きな柱として、関連する課題を組み合わせながら行動計画を作成し、実践・実現させていきます。

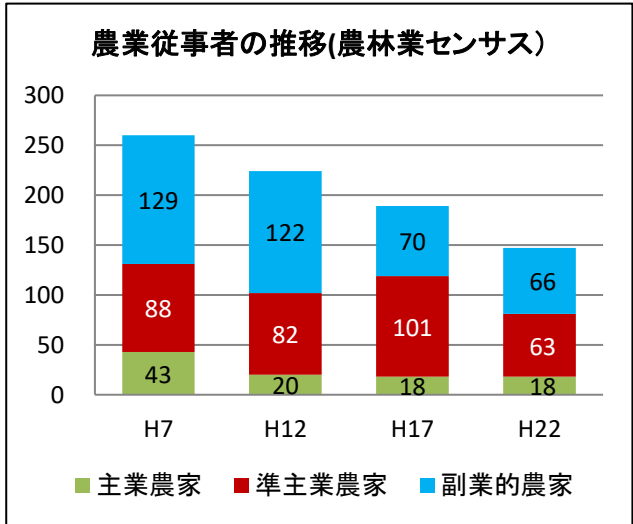


5. 数字で見る大網地区



平成27年度大網・田麦俣地区観光来場者数(人)

観光スポット	延べ人数
注連寺	12,700
大日坊	25,500
湯殿山スキー場	32,600
サンチュアパーク	1,500
オートキャンプ場	90,300
湯殿山神社	5,500
六十里越街道	6,600
多層民家・七ツ滝	
合計	174,700
平均(一か月)	14,558
平均(一日)	479



6. 地域が誇る資源

自然の恵み・歴史

豊かな自然が生む山菜、きのこ、野菜などはどれも風味がよく美味しい。昔から暮らしの中で築かれてきた加工の技術や生活の知恵は、大網の財産であり、絶やすことなく伝えていきたいものです。また、大網は月山や湯殿山の山岳信仰文化と共に歴史を重ねてきました。

春夏秋冬、季節ごとに表情を変える里山の風景はどこか懐かしく、見る人の心を癒してくれます。



行事・つながり

夏季、冬季の運動会をはじめ、活発な行事が多く、その度に地域が素晴らしい団結力を発揮します。地域と学校の繋がりが強く「地域で子どもを育てる」という気概が根づいており、小学校が廃校となってしまったこれからも守っていききたいものです。人情味あふれる地域性は大網の誇りであり、進学や就職などで大網を離れても、ふるさとを思う気持ちは決して無くなりません。



出逢いと祈り、そしてミチとの遭遇

1. 暮らしを支える仕組みづくり



地域住民の日常生活における不便の解消を図るため、日用品等を購入できる「大網版集落コンビニ」の設置に向け検討していきます。

また、交通面では、予約制住民タクシー等により移動手段を持たない高齢者等の足を確保するなど、暮らしを下支えする仕組みづくりを進めます。

さらには、冬期間の雪下ろしや雪かきなど除排雪に係る負担軽減を図る仕組みについても研究していきます。

2. 特産物の高付加価値化と販路の開拓

～出来ることから小さくはじめる～

農業所得の向上に向け、農業組織やJAなど関係団体と連携しながら、加工技術の研究や安定供給を図るための栽培体制の整備を進めます。あわせて、山菜や月山筍など地域特産物の付加価値の向上と販売ルートの開拓を図ります。

また、組織内に販売部を設け、産直施設等と連携しながら、軽トラ市や移動販売に取り組むとともに、地場産ソバの提供などについても検討を進めます。



3. 世代や地域を超えた“絆”づくり



子ども達が集い、遊んだり勉強ができる居場所を旧大網小に再生し、郷土への愛着や誇りを育むとともに、世代を超えて地域住民が気軽に集える地域内外に開かれた交流の拠点づくりを進めます。

さらには、地域を支えるサポーターとして、大網学校同窓会東京支部をはじめ、地域外へ転出した方々との絆やつながりをこれからも大切にしながら、大網の強みである「交流」を核に、ともに地域

力の維持・強化を図っていきます。

来てみっちゃ! 「交流の里おおあみ」

4. 大網の魅力を守り伝え、体感できる態勢づくり



観光のインフォメーション窓口を設置し、湯殿山や大日坊、注連寺、田麦俣、六十里越街道などに多くの観光客が訪れるよう、観光ルートや体験メニューの開発を進めます。

また、大網の美しい自然や景観をテーマにしたフォトコンテストの実施やPRパンフレットの作成、SNSの活用等を通じて、地域の魅力を広く発信していきます。

さらには、スポ少をはじめとしたスポーツ合宿、企業の宿泊研修、自然教室やジュニアキャンプなどの受入れを視野に、滞在拠点として旧大網小の活用を図ります。

5. 将来を見据えた地域運営の体制づくり

旧大網小学校にコミュニティセンターを移転し、地域運営の拠点化を図ります。

また、地域の将来を見据え、地域内の組織やそれぞれの活動など、地域運営の方法について見直し・再点検を行い、統合や再編を通じて地域住民への負担の軽減を図りながら、地域活動に参画しやすい体制を確立していきます。

そして、地域デザインの実現に向け、地域住民や多様な組織との連携・実践を通じて、地域を総合的にマネジメントしていけるような組織のあり方や人財の確保・育成について研究していきます。



1 日常生活の不便を解消する。

- 具体的目標 大網版集落コンビニを設置して、日用品を販売する。
予約制住民タクシーを運行する。

2 特産物の販路を開拓する。

- 具体的目標 組織内に販売部をつくり、軽トラ市や移動販売で山菜やキノコ、
月山筍を販売する。部員5名以上。

3 地域の絆を強くする。

- 具体的目標 旧大網小学校内に、地域住民が気軽に集える場をつくる。
大網地区出身者との交流を継続する。地域サポーター50名以上。

4 大網の魅力を体感できる態勢を整える。

- 具体的目標 観光ルートや体験メニューの開発に取り組む。
SNS等を活用して大網の魅力を広く発信する。

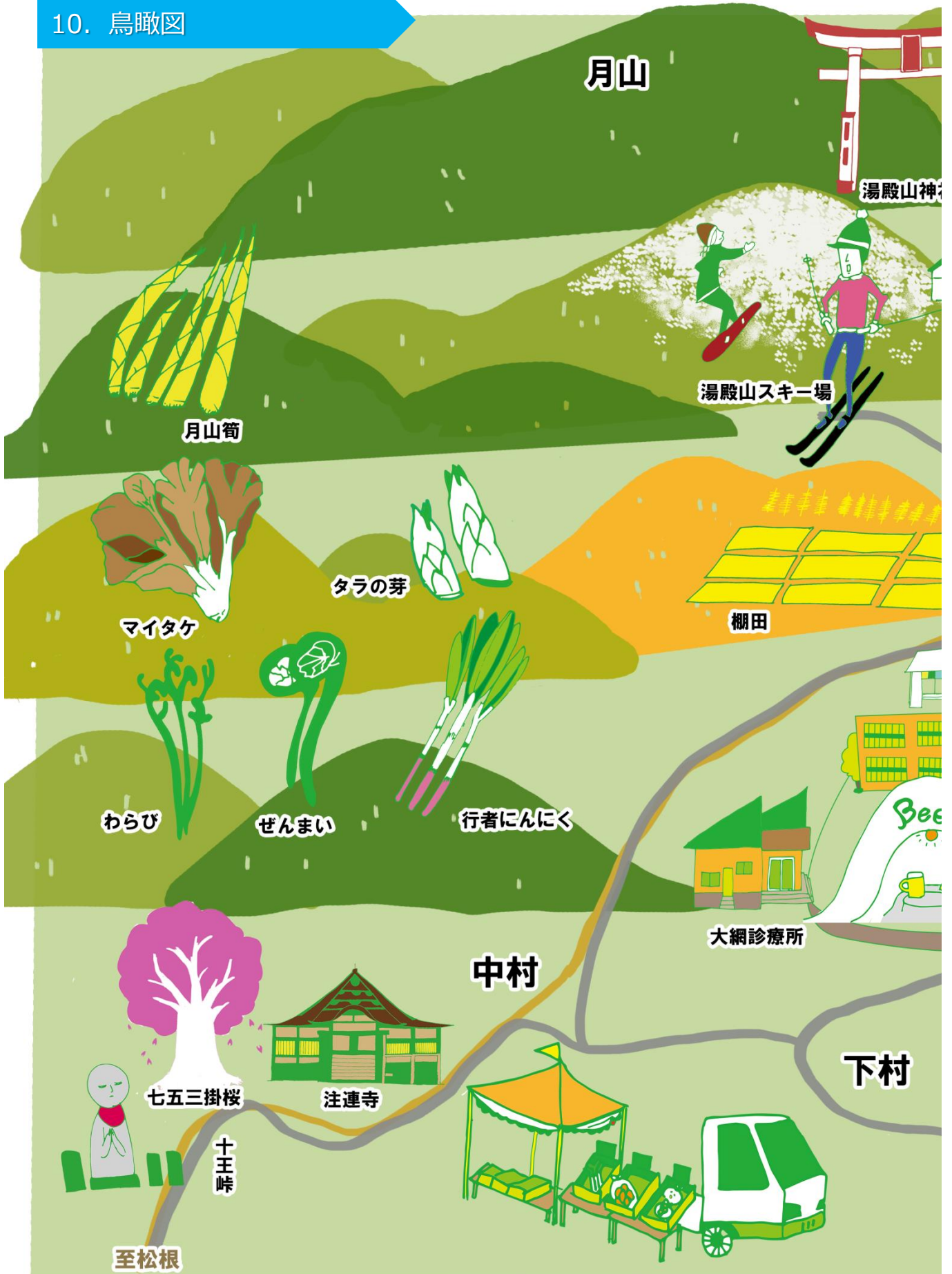
5 活動に参加しやすい体制をつくる。

- 具体的目標 地域運営の方法を見直し、住民負担の軽減を図る。
持続可能な組織づくりと人財の確保・育成を図る。

9. 事業計画（平成28年度～平成32年度）

項目別の活動内容	主な連携先	着手年度				
		H28	H29	H30	H31	H32～
1. 暮らしを支える仕組みづくり						
日用品等が購入できる大網版集落コンビニの設置	出羽商工会		○	○	○	○
デマンド型住民タクシー等による移動手段の確保	交通事業者・行政	○	○	○	○	○
ボランティアや格安作業による除排雪作業の軽減	シルバー人材		○	○	○	○
雪下ろしや雪かきツアーの実施				○	○	○
月山ダムの電力を活用した屋根等の消雪システム調査	月山ダム				○	○
逆転の発想調査（カメムシ・空き家の防災訓練など）	行政					○
2. 特産品の高付加価値化と販路の開拓						
山菜や月山筍、行者にんにく等の加工技術の研究及び栽培体制の強化	J A		○	○	○	○
インパクトのある名称変更などによる高付加価値化と販売ルートの開拓	J A・産直グー等		○	○	○	○
軽トラ市や移動販売（販売部を設置）	産直グー等	○	○	○	○	○
産直スペースの設置（※商店とセット）			○	○	○	○
地場産のソバやもち米を活かす仕組みづくり（もち専門店やソバ屋開業）				○	○	○
山菜やきのこ、月山筍等の加工施設の整備	J A・産直グー・行政					○
3. 世代や地域を超えた“絆”づくり						
子どもたちが集い、遊んだり勉強したりできる居場所づくり（旧大網小の活用）	行政		○	○	○	○
地域の人たちが気軽に集まれるカフェや大網酒蔵の設置			○	○	○	○
旧大網小グラウンドをテント村として活用し星を見る会を開催			○	○	○	○
雪を魅せる取組として、かまくらビアガーデンの実施			○	○	○	○
森の保育園とタイアップした取組			○	○	○	○
東京大網会とのつながりの維持・強化に向けた取組 （例）地区サポーター制度・運動会や祭り、同窓会の継続・子孫世代への声掛けによる会員の確保・空き家を活用したUターン促進	東京大網会	○	○	○	○	○
4. 大網の魅力を守り伝え、体感できる態勢づくり						
観光インフォメーション窓口の設置	あさひむら観光協会		○	○	○	○
観光ルート及び体験メニューの開発 （例）五穀十穀断ちツアー・寺巡りや座禅会・スノーモービルコース・トレッキング・サイクリング・月山筍採り名人と行くツアー・ウサギまきツアー・ソバ打ち体験・メイプルシロップ親子パン教室・かまくらホテル・雪下ろし雪かきツアー	あさひむら観光協会			○	○	○
大網の美しい自然や景観をテーマしたフォトコンテストの実施	あさひむら観光協会		○	○	○	○
観光資源を掲載したPRパンフレットの作成と活用 （例）シーズンinの早い湯殿山スキー場の改名などPRの工夫	あさひむら観光協会			○	○	○
SNS等を活用した参加型の情報発信	あさひむら観光協会	○	○	○	○	○
旧大網小を滞在拠点として整備（スポーツ合宿やトレッキングに活用）	行政			○	○	○
山村留学や自然教室、ジュニアキャンプの誘致（食事の地元提供）	行政				○	○
旧大網小を企業等の研修に活用	企業				○	○
六十里越街道の茶屋復元にむけた検討	あさひむら観光協会					○
5. 将来を見据えた地域運営の体制づくり						
地域運営の見直し・再点検による地域住民の負担軽減	地域	○	○	○	○	○
地域を担う人財の確保・育成	地域	○	○	○	○	○

10. 鳥瞰図





11. 具体的提案整理表

※検討委員会ワークショップで提案された内容をまとめました

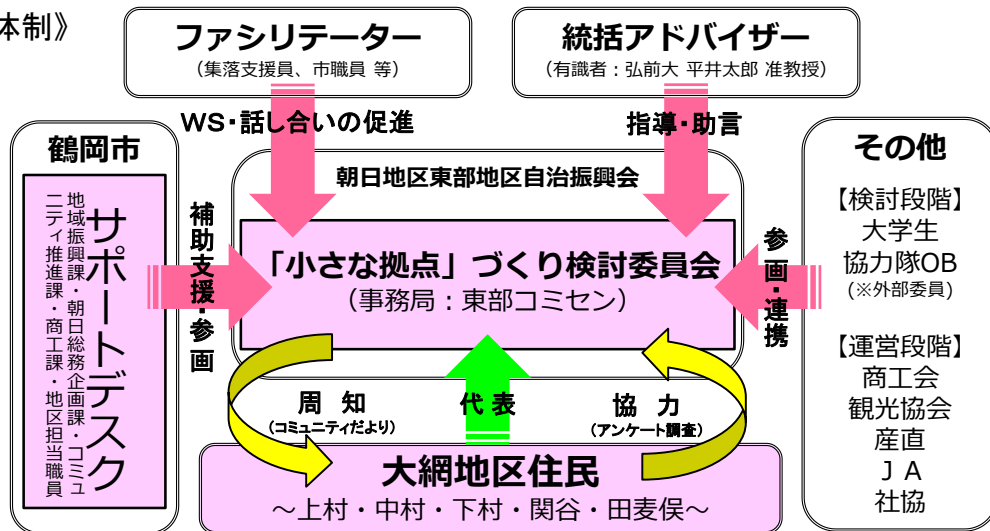
分類	項目	着手時期			主体・役割・連携(実践の体制)						
		すぐ	2~4年	5年~	住民 個々	組織の 取組み	地域の 取組み	組織間 連携	他地域 連携	行政と の連携	行政
自然・ 景観に 関する こと	交流人口を増やすため、ウサギまき体験ツアーを実施する。	○				◎					
	大綱小グランドをテント村として活用し、星を見る会を開催する。	○				◎					
	美しい自然、景観をテーマにした写真コンテストを実施し、地域のパンフレット等にも活用する。	○						◎			
	観光資源を掲載したPRパンフレットを作成する。	○						◎			
	SNSなど書き込みが可能なツールを使って参加型の情報発信を行う。	○						◎			
地域 資源に 関する こと	地域住民が先生となって、そば打ち体験教室を開催する。	○				◎					
	都会から小中学生の山村留学を受け入れ、地元で食事を提供する。	○				◎			○	◎	
	メイプルシロップを活用した親子のパン作り教室を開催する。	○				◎					
	地域に餅をつくれる人材があるので、地元のお米を使ったもち専門店をつくる(ぶどうっ葉もち)。	○				◎					
	月山筍採り名人と行くツアーを実施する(田舎ならではのおもてなし。美味しい食事、昔話)。	○					◎				
	大綱小の校庭に期間限定のかまくらホテルをつくる。	○					◎				
	寺(即身仏)めぐりや座禅会を企画・開催する。	○					◎				
	月山筍の付加価値を上げるため、インパクトのある名称をつけて知名度を上げる(例:マンゴー=太陽のたまご)。	○						◎			
	大綱小の空き部屋を企業の研修に使ってもらう。	○						◎			
	月山筍や山菜をもっと産直に出回るようにする。	○						◎			
	山菜やきのこなど地域産物で小遣い稼ぎを行うため、販売部を設けて販売に力を入れる。	○						◎			
	農産物が現金収入になるよう移動販売に取組み、市内へ売りに行く(午前中に回収して1ケースワンコイン500円)。	○						◎			
	ソバの生産農家があるので、ソバ屋を開業する。	○						◎			
	山菜を採るだけでは減ってしまうので栽培も増やす。	○						◎			
	山岳信仰者やサイクリング者に十王峠に来てもらう	○						◎			
	日本の本州で一番早い雪が降るスキー場として「湯殿山スキー場」を活用する(名称の変更など)。	○								◎	
	大綱小に風呂、シャワー、プール設備の整備を行い、スポーツ等の合宿所として活用する。	○							○	○	◎
	地域内の観光地を周遊するバスを整備する	○									◎
	雪国体験として、雪下ろしや雪かきのツアーや講座を開催し、外から人を呼び込む。		○				◎				
	雪山や棚田にコースをつくり、スノーモービルを使ったツアーを実施する。		○				◎				
	夏の雪の活用のため、雪蔵を作り憩いの広場にする(雪ピアガーデンなど)。		○				◎				
	水・ソバ・人・力、全部揃っているの、地域が総力をあげれば何でもできる。		○				◎				
	小学校の校舎を改修して産直施設を整備する。		○				◎				
月山筍が高く売れるように加工技術の研究と販売ルートの開拓をする。		○					◎				
他地域からの誘客のため山菜取り、山菜料理教室、トレッキングツアーを行う。		○					◎				

分類	項目	着手時期			主体・役割・連携(実践の体制)						
		すぐ	2~4年	5年~	住民 個々	組織の 取組み	地域の 取組み	組織間 連携	他地域 連携	行政と の連携	行政
地域資源に関すること	六十里越街道・大日坊、注連寺などの観光資源を活かすため、拠点施設に窓口を設ける。	○						◎			
	大網小のグラウンドを整備して、スポ少サッカーや中学校ソフトボールの合宿地とする。	○								◎	
	小学校の自然教室、ジュニアキャンプを誘致する。	○								◎	
	雪室を活用拡大して行者にんにく等の生産量を増やす。			○				◎			
	山菜やきのこ、月山筍の加工施設を整備し、おもてなしにつなげる。			○				◎		○	
暮らしに関すること	地域内の人たちの交流を促進するため、うどんや焼き鳥の店をひらく。	○			◎						
	大網小を活用し、日用品が買える商店をつくる。	○					◎				
	雪下ろしのボランティアが、いつでも連絡すれば来てくれる。	○					◎				
	市バスでなくてもワゴンなどを借りて、乗合いできたら交通はもう少し楽になりそう。	○					◎				
	交通が不便なので、集落までタクシーが来てくれて、運賃も500円(月額)くらいで運んでくれる。	○						◎			
	高齢者のためデマンドカーを活用する。	○								◎	
	空き家に住む人に来てもらう。集落の出身者に戻ってきてもらう。	○								◎	
	後継者の定着を図るため、通勤が可能となるよう降雪状況に応じて夜間除雪を行う。	○								◎	
	大網小の雪下ろし作業軽減のため片屋根に改修する。	○									◎
	誰もが大網でショッピングを楽しめるようにしたい。大網版集落コンビニを作って運営、ショッピングツアーを実施など。		○					◎			
	高齢者のため、格安料金で屋根の雪下ろし作業を行う。		○					◎			
伝統・文化に関すること	月山ダムの電気を分けてもらい、屋根の消雪に活用するなど、冬の雪下ろしの解消につなげる。		○							◎	
	崩れそうな危険空き家を消火訓練に提供・活用する。			○				◎			
	即身仏にちなんだ体験ツアーを開催する(五穀or十穀断ち、体質改善ダイエット)。	○						◎			
	六十里越街道をすたれさせないため、昔の茶屋の復元等を検討する。	○						◎			
	六十里越街道と棚田や眺めの良い所を整備し、観光客の誘致を図る。	○								◎	
生きがいに関すること	湯殿山や大日坊、注連寺、田麦俣などに観光客が多く訪れるように、観光ルートを開発し観光体験ツアーを実施する。		○					◎			
	六十里越街道の拠点施設(合宿所)としてコミセンを活用し、多くの人を呼び込む。		○							◎	
	ここに住みたい、住んでみたいと思ってもらえるイベントを実施する。カップルで星空を眺め宿泊。運動会や祭りを広く発信し、人を呼び込む。	○						◎			
	拠点施設に、地域の人たちが気軽に集まれるカフェや飲屋をつくる。	○						◎			
	グラウンド・体育館も開放し、大網小に子どもたちが集い、遊んだり勉強したりできる居場所を設ける。	○								◎	
	地域外転出者に地区サポーターになってもらい、会費をもらい情報や特産物を送る。	○						◎			
他	大網会東京支部の会員を確保するため、子供・孫世代に声掛けをして会の維持を図る。	○							◎		
	運動会・祭り・同窓会をこのまま継続もしくは祭りと同窓会を一緒に行うなど形を変えても続けていき、絆をつなげていく。		○					◎			
	東京大網会の方々を集落行事に合わせて呼んで、交流や共同作業を行う。		○					◎			
他	やっかいなカメムシを有効活用できないか、研究機関を通して調査する。			○						◎	

※「主体・役割・連携」の凡例：◎…主な実践体制 ○…その他想定される連携先

12. 検討委員会の経過

《検討体制》



○第1回検討委員会（平成28年5月31日開催）

- 《目的》 制度理解及び目的の共有
- 《内容》 「小さな拠点」づくりとは？
検討委員会の進め方について
検討メンバーの自己紹介・交流



○第2回検討委員会（平成28年6月16日開催）

- 《目的》 現状把握（ふりかえり）・地域課題の洗い出し
- 《内容》 フィードバック①（市集落対策事業を通じたこれまでの個別集落の取組と課題）
フィードバック②（大網田麦俣地域ケアネットワーク会議の集計結果）
ワークショップ（上記を踏まえた課題の洗い出し→時限別に地図へ落とし込む）



○「小さな拠点」づくり講演会（平成 28 年 6 月 21 日開催）

《目的》 当事者意識の喚起（地域住民の意識づくり）

《講師》 明治大学農学部 教授 小田切 徳美 氏

《演題》 「農山村再生の鍵～農山村は消滅しない～」



○先進地視察研修①（平成 28 年 7 月 30 日開催）

《目的》 課題解決に向けた先進的な取組現場を視察

《事例》 岩手県北上市口内地区～NPOくちない～

- ・自家用有償運送と店っこくちないの取組み



○先進地視察研修②（平成 28 年 8 月 24 日開催）

《目的》 課題解決に向けた先進的な取組現場を視察

《事例》 島根県雲南市波多地区～波多コミュニティ協議会～

- ・地域自主組織について
- ・はたマーケット及び地域内交通「たすけ愛号」の取組み



○先進地視察報告会（平成28年9月2日開催）※終了後に交流会

《目的》先進地視察の結果を共有するとともに、検討メンバー相互の交流を図る。



○第3回検討委員会（平成28年9月27日開催）

《目的》視点を広げて地域の将来について考える（課題の深掘り）

《内容》ワークショップ（強み、弱み、活用、不安の4つの視点から地域を見つめる）



○第4回検討委員会（平成28年10月19日開催）

《目的》地域の将来を見据え、課題に対応した解決策を提案する

《内容》ワークショップ（前回の結果を踏まえ、以下4つの視点から提案）

- ①強みを活かす（継続する）ための提案
 - ②弱みをなくす（強みに変える）ための提案
 - ③資源を活かす（お金に変える）ための提案
 - ④不安をなくす（払拭する）ための提案
- 提案を分類別・主体別・年次別に整理
- キャッチフレーズ（テーマ）の検討



○第5回検討委員会（平成28年11月28日）

《目的》話し合いを通じて各提案を重要目的と結び付けながら、体系化する。

《内容》ディスカッション形式（整理・結合） → シール投票（優先順位の明確化）



○第6回検討委員会（平成28年12月27日）

《目的》地域デザイン案に抜け落ちた視点はないか内容の確認と共有を図る。

《内容》地域デザイン（案）の最終確認



13. 寄稿

大網地域デザインに寄せて

弘前大学 平井太郎



まずもって今年度みなさんお疲れさまでした。集落対策事業から数えて3年あまり。みなさんの着実な実践がようやく次のステップに向かおうとしています。

ぼく自身の大網の印象は、はじめて伺ったときから変わっていません。それは「つながりのなかで生きる人びとの魅力的な姿」です。互いの持ち味を知り尽くし、それぞれの持ち場をしっかりと守り、力を寄せ合うことで大きなことをなす。みなさんには当たり前のことかも知れませんが、他の地域ではなかなか見られません。「つながり」はまさに大網の宝だと確信しています。



地域の外とのつながりも

そうしたつながりで、本当に大網にしかないと思われるのが、東京大網会との絆です。出身者が毎年、小学校の文化祭にバスを仕立てていらっしゃるなどという地域は、まず聞いたことがありません。どこの地域も出身者との絆をあらためて紡ぎ直そうと四苦八苦している現在、大網のまず強みだと考えて間違いありません。

この絆をどう深め、広げていくのか。これから地域デザインに魂を入れるうえで、もっとも重要な課題です。深めるには、文化祭以外の時期にもイベントから始めて、キャンプや林間学校、スキー合宿など、短期、中期と少しずつ滞在型の取組みを展開してみたいかでしょう。そう、ここでキャンプなどと言いましたが、東京大網会



とのつながりも、本当の出身者だけでなく、東京で生まれた子や孫まで広げ、そうした子どもたちに大綱に足を運んでもらうのが、大綱の末永い未来を考えるうえでとても大切です。

さらに言えば、東京に限らず、鶴岡市街や仙台、札幌など、各地の子どもたちにも、呼びかけの輪を広げられないでしょうか。あるいは、出身者でなくとも、山のなかで、雪のなかで過ごす時間を切実に乞うている子どもたちは、大都市を中心にたくさんいます。最終的には、そうした山村留学、あるいは「雪の郷留学」と言うべきでしょうか、そうした試みの実現すれば、大綱の未来は今以上に拓けてくると思われます。



学び舎の再生を

残念ながら大綱小学校は140年の歴史にいったんは区切りを付けました。しかしそれは次なるステージの第一歩です。まずはコミュニティセンターとして再生するわけですが、そもそも学校とは何なののでしょうか。

今では学校というと、誰かが決めたことを地域の事情とは関係なく教え、教わる場だと思われています。しかし大綱小が「小学校」として改組された明治20年前後は、ちょうど大綱村などが「東村」を立ち上げた時期に当たります。そう、この時期は全国で村づくりが進んでいたのですが、それは何より小学校を自前で運営できる力を付けるためでした。つまり、日本の地域の原点には小学校があり、地域の使命は小学校を運営することにあつたと言ってもかまわないのです。

その意味では、大綱小学校の次のステージの課題は、地域がもう一度、自身の手に学校を取り戻すことにあるとも言えます。今回の衣替えはそのまたとないチャンスなのです。だからこそ、星空を見上げるキャンプやスキー合宿など、大綱でしかできない学びの機会を、新たな小学校＝コミセンを核に展開することには大きな意義があります。

大変かと思いますが、今度は文字通り大綱のみなさん一人ひとりが先生になって、地域内外から子どもたちを迎えてください。先生と言っても固くなることはありません。子どもたちより少し「先に生きた」その経験知をありのまま伝えていただくだけでいいのですから。

仕事づくりも学びのなかから

学びの場の提供という地域にとっては持ち出しばかりになるのでは？と思われるかも知れません。しかし考えてみてください。「教育」ほど現代人が惜しみなくお金を投じるものはありません。みなさんもそうだと思います。子どもたちや親の立場にたつて、彼ら彼女らが本当に望んでいる学びの場を提供すれば、必ず十分な対価を得ることができます。今の学びの場に決定的に欠けているものの一つが「出逢い」や「未知との遭遇」による感動です。決まりきったことを、閉じた人間関係のなかで学ばねばならない閉塞感がこの社会には満ち溢れ

ています。それで体を壊す子どもたちも数知れませんが、そうではない学びの場づくりは大綱でこそ可能でしょう。「出逢い」と「未知との遭遇」は、まさにみなさんの地域デザインそのものなのですから。

もちろんそうした場づくりを「観光」と呼んでもかまいませんが、大切なことは三方よしになるよう、しっかり対価を頂くことです。さらに言えば、みなさん自身が学びの場に参画することで、大綱に生まれ育った人たちですら忘れかけていた大綱だけの価値の再確認も進むのではないのでしょうか。大綱だけの「月山筍」をしっかりブランド化するには、どこが他と違うのか、誰にもわかりやすいように伝えられる物語が大切です。そうした物語の種も、新たな小学校＝コミセンでの学びの場にお年寄りたちを招き、記憶を一つひとつよみがえらせることから引き出せることでしょう。

大綱を1つのキャンパスに

最後に今後の活動の進め方について。今回の集落事業や地域デザインでは、必ずしも十分に「外の目」が生かされて来なかったように感じます。たとえば東京大綱会にしても、運動会でも酒飲み競争にしても、みなさんには当たり前すぎて何を今さらという感じかも知れません。あるいは、あまり他では見られないことは知っていても、その重要性はあまりお気づきになっていないのではないのでしょうか。このような気づきは、ぼくのような立場の者よりも、大綱に何度も通ったり泊り込んだりする何人もの学生が口々にお伝えした方が、みなさんにより得心いただけることでしょう。



そうした学生のフィールドワークやインターンシップもぜひ受け入れていただき、彼ら彼女らの力を借りながら、さまざまなことを試してみたい。そのように学生たちにチャレンジの機会を開いていただくことは、小学校＝コミセンだけでなく、地域全体を1つのキャンパスとした、懐の深い学び舎として大綱を未来に伝えてゆく第一歩になると確信しています。



イラスト 須藤 明里・五十嵐 なつみ

大網地区「小さな拠点」づくり検討委員会 にご協力をいただいた皆さま

【検討委員】

遠藤 俊彦・渋谷 守・渋谷 喜一・佐藤 美智夫・遠藤 尚子・遠藤 正
遠藤 一夫・遠藤 くみ・遠藤 卓・渡部 浩美・遠藤 喜秀・渋谷 志津
門脇 えり子・藤原 至留・渡部 昌樹・門脇 広和・清野 成行・清野 美智夫
渡部 恵美・井上 秀夫・佐藤 多文・佐藤 晃・井上 正人・井上 あゆみ

【外部委員】

田口 比呂貴・須藤 明里・五十嵐 なつみ

【事務局】

井上 時夫・渡部 政治・井上 恵美子・今野 葵